



秋の入口



こぐまじゅんこ

ぼくは、小学1年生。

はじめての夏休みも終わり、9月から、また学校に行っている。

学校は、まあまあ楽しい。

それなりに友達もいるし、勉強もそこそこできるから。

今日は、5時間授業があって、今、帰っている。

通学路の途中までは友達と一緒にだけれど、友達と別れるとあとは、ひとりだ。

てくてく歩いていると、足元に、はんみょう をみつけた。

別名「道おしえ」というカラフルな虫だ。

虫の苦手なぼくでも、この虫は、きれいだから、大好きだ。

はんみょうは、ぼくの前をとんでいく。

ちょっととんでは、とまり、ちょっととんでは、とまる。

ぼくは、はんみょうの行く方に、ついていくことにした。

どのくらい歩いただろう。

気がついたら、小さな森の前に立っていた。

森に入っていくと、

「ようこそいらっしゃいました。」

と、小リスが出迎えてくれた。

コスモスが咲いている。

栗や梨も、どっさり。

風は軽く、空は高い。

ぼくは、この森がすっかり気に入ってしまった。

梨をおなかいっぱい食べて、赤とんぼを追いかけた。

小リスやキツネ、たぬきたちが、どこからかやってきて

ぼくと一緒に鬼ごっこをして遊んだ。

鬼のぼくは、必死に追いかけるけど、さすがに、みんな素早くてなかなかつかまえない。

くたびれはてて、ぼくは、原っぱに寝転んだ。

とてもぼくには、つかまえないよ。

そして、いつの間にか、眠ってしまっていた。

ふわり ふわり と心地よい風に吹かれて

ぼくは、目が覚めた。

気がつくと、ぼくは、家の自分の部屋にいた。

「あれっ。夢だったのかなあ。」

ぼくの髪の毛に、コスモスの花びらが1枚
くっついていた。